

活動目的

入院児における課題

入院中はかかわる人も制限され、医療スタッフや両親に囲まれて同世代の関わりは減少する。そのため、社会の中で孤立感やつながりの希薄を感じやすい

プロジェクトの目標

入院中の子どもたちが感じる孤立感を低減する社会とのつながりを感じられるような機会を創出していく

プロジェクトの意義

- ①入院児のQOL向上への寄与
- ②多職種連携の経験
- ③教育と医療の橋渡しとなる

これまでの活動実績

学習支援

信大附属病院：1名（オンライン）
 ・学習教材の郵送による支援
 長野日赤病院：1名（延べ3回、対面）
 ※今年度もすでに長野日赤にて学習支援を実施

イベント開催

信大附属病院（院内学級にて）
 長野県立こども病院（オンラインで中継）

その他

メタバースを用いた病弱児特別支援学校との交流
 東長野病院でのボランティア
 講演会（昭和大学 副島賢和先生）等の参加



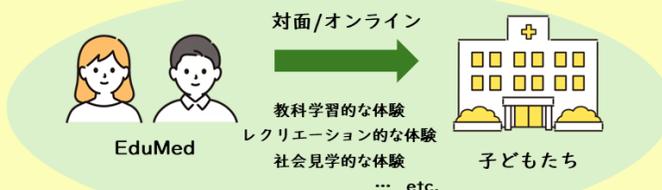
EduMed



活動内容

イベント 企画・開催

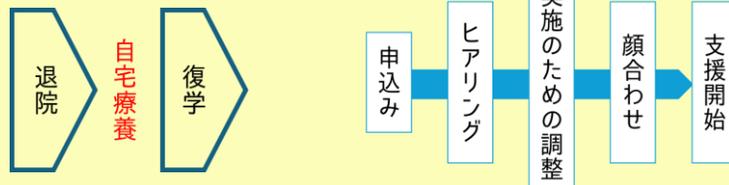
- ・年齢の近い「大学生」が院内学級等で子どもたちと直接的なかかわりを持てることで孤立感の軽減を目指す
- ・音楽や図工，社会見学といった要素を含むことで様々な体験を保障し，子どもらしい時間を提供する
- ・1対1で会話できる時間があることで安心感につながる



学習支援



- ・昨年度の活動を継続して対面またはオンラインによって個別に学習支援を実施
- ・支援対象を具体化し、退院後～完全な復学までのお子さんや義務教育ではない高校生など、既存の支援体制では対応の難しい児童生徒も積極的に支援する



活動展開

活動の輪の広がり

3年目の活動となるが、メンバー人数の減少や協力していただける病院の固定化が懸念事項として挙げられる。学生向けの情報発信を積極的に行い、本年度も学習支援のチラシを配布する

連携の広がり

これまでFabLab Naganoと協働したように他団体との協力をする事で活動内容やイベント内容の充実を図っていく
 ※現段階で確定している団体はないが、同じEducational Challengeの申請団体とのきっかけをつくりたい！

活動内容の広がり

これまでの教的内容やレクリエーション等だけでなく、キャンパス案内や地域探索などオンラインも活用した活動内容を提案する
 → いくつか可能な案をまとめておくことで病院側にもイメージしやすくする

その他

定例ミーティング

現段階では頻度を決めていないが、企画の立案・実施準備や学習支援のための情報共有や研修のために行う予定（月2回を基本として準備進捗に応じて）

進捗と今後の予定

学習支援の広報のためのチラシ配布 （6月中に変更）
 企画の立案と交渉
 → 6月13日の企画は附属病院と調整済みで決定
 活動内容も確定している（楽器工作）

Youth 正副代表

山口 泰聖（臨床心理学コース2年）
 川岸 歩実（臨床心理学コース2年）

質問への回答（別途、補足が必要な点）

昨年度までの課題

○ 学生メンバーが増えない, 支援に入れる病院に限られる

－ 学生向けの広報にも力を入れる

- ▶ 紹介動画や紹介資料(これまでの活動記録)を広報する
- ▶ (提案になってしまいますが…) Educational Challengeの申請団体の活動紹介を教育学部全体に一括周知などできると認知される機会の広がりが期待できる

－ 入れる病院が限定的

- ▶ 感染症予防やプライバシー保護の考え方等が病院ごとあるため, すべての病院でスムーズな受け入れを求めることはできない
- ▶ 一方, 附属病院や長野日赤病院などこれまで活動してきた病院ではニーズがあることも確かであり, 1つずつ活動実績を重ね, 周知していことがベストだと考える

広報先: 長野市・松本市の病院(小児の入院受入のある)、長野県教育委員会

質問への回答（別途、補足が必要な点）

他団体との交流

○ 企画できる内容を豊かなものにするために

－ 教育学部内で連携協力できる団体とのつながり

- ▶ これまでFabLabNaganoなどといっしょに企画などしてきたが、今年度のEducational Challenge申請団体やサークル, コース（もしくは研究室）で協力していただける方に声をかけていきたい

－ 全国的なつながり

- ▶ 「Your School」のように全国的な入院児支援をつなげている団体とのつながりを一層
- ▶ 様々な事例を知ることによって、どのように運営体制をつくるべきか（広報や研修など）、事例ごと対応方法を知るなど活動を広げる基盤づくりのノウハウを知れるように